

特集

2014年の私へ



新年あけましておめでとうございます。
ことし最初の特集では、昨年内で活躍した方々に語っていただいた今後の展望や決意について紹介します。
明るい一年の幕開けを、精神的に活動する方の輝く表情と共に迎えください。
写真…2013年の主なできごと



多くの人を成人祭へ

「必ず楽しめる内容になってきているので、とにかく多くの人に成人祭へ足を運んでほしい」と語るのは、平成26年登別市成人祭実行委員長の小刀稱さん。卒業研究の合間を縫い、自身も新人として臨む成人祭の準備を進めています。卒業研究では、新入生のために市内の店舗情報などが入った電子地図を開発しており、常に「使いやすい、見やすいものを提供すること」を第一に考えているそうです。

成人祭の準備も同様の精神で進め、「しおりのデザインを例年と大きく変え、見た人の心に残るものを目指しました。かつての恩師からのビデオレターなど、参加者に喜んでもらえる企画も進めています」と工夫に余念がありません。今後の抱負について「卒業し社会人になっても、今まで以上に何に対しても積極的に取り組んでいきたいです」と語ってくれました。

平成26年登別市成人祭実行委員長

小刀稱 栞さん



日本工学院北海道専門学校
情報処理科2年生。
現在、卒業研究に奮闘中。

デザイナー
井元 耕さん



デザイン会社Till Company
代表。登別温泉街にてカフェ
『garden』も経営。

情報戦略で人を呼び込む

2年前に市内で会社を立ち上げ、デザイン制作を行っている井元さん。現在は登別温泉街に事務所を兼ねたカフェを開き、本業の傍ら、地獄まつりのイベント企画などにも積極的に関わり、地元のために尽力しています。

昨年手掛けた代表的な仕事は『北海道新幹線xニッタン地域戦略会議』のロゴマーク制作。井元さんは、胆振日高地区が一丸となって新しい魅力を創出し、北海道新幹線開業の効果を最大限に生かすというこの取り組みに賛同し「今後はデザインだけに留まらず、インターネットなどを活用した胆振日高地区の魅力の発信にも取り組みます」と意欲を見せます。

今後の取り組みについて、「チラシやホームページを作って終わりにするのではなく『ニッタン』という言葉が広く認知されるよう工夫したいです」と決意を語ってくれました。

ありがとう運動でいじめ予防

鈴木さんは幌別中学校生徒会で、平成25年10月まで会長を務めていました。「元々人前で話をするのが苦手でしたが、この1年間で克服し、成長できました」と任期を振り返ります。

生徒会では、あいさつ運動やいじめ防止ソングの作成などの取り組みを進め、平成25年9月には鈴木さんが全国生徒会サミットへ出席し、他校の生徒会に取り組みについて紹介しました。一連の活動は、「生徒みんなが『ありがとう』など当たり前のことをつかり言えるようになり、いじめの防止につながれば」との理念で押し進めていたそうです。

現在は生徒会を引退し、高校受験に向け準備を進めています。将来の夢について、「まだはっきり見えていませんが、高校生になったら将来を見据えて早く進路を決め、しっかりと生活を送りたいです」と笑顔で語ってくれました。

幌別中学校前生徒会長

鈴木 翔太さん



幌別中学校3年生。
同校あんどん行列の2年ぶりの復活などにも携わる。

のぼりべつ夏祭り実行委員長
にしお
西尾 拓也さん
たくや



クリーンビル開発株式会社代表取締役。のぼりべつ元鬼協議会会長。

文化を伝え、未来をつくる

『いぶり食と文化の祭典』というテーマで、昨年初めて開催された『のぼりべつ夏祭り』の立役者となった西尾さん。「熊舞など普段は見られない芸能や地域の食材に触れる機会をつくり、地元の持つ魅力を発信すること」を念頭に、準備に当たりました。

その背景には、市の人口減少に対する「これからの未来をつくる子どもたちが自分の街の良さを知って定着し、地域を活性化させなければいけない」との思いがあったそうです。

初となるまつりの開催には、多くの困難が伴いましたが、2日間で実行委員会の予想を上回る約2万人の来場がありました。

西尾さんは、「イベントをきっかけにできたつながりを今後も強化し、将来を見据えながら市のイベントやまちづくりに貢献したいです」とことしの抱負について話してくれました。

4年間の集大成となる1年

「2013年は、オリンピックに出るため、自分が感じるままに、必要だと思うことに思い切り挑戦し走り続けました」と1年を振り返るのは、スノーボードアルペン競技でソチオリンピック出場を目指す宮武さん。

スイスを拠点にして取り組んだ練習については、「そこから見える世界、得ること、感じることで、一つ一つを自分に返して大切に過ごすことができました」と、その充実ぶりをうかがわせます。

今年の目標について尋ねると、「この4年間、この年に焦点を合わせて過ごしてきました。4年に1度しかないオリンピックシーズンで、私にとって特別な年であり集大成となる1年です。今まで積み重ねて得たものを一つにまとめ、今までで最も大きな変化のある1年にしていきます」と力強く話してくれました。

スノーボーダー

みやたけ
宮武 祥子さん
しやうこ



平成25年2月のスノーボードイタリア大会で5位入賞、3月の国内大会では優勝。

登別市観光ボランティアガイド协会会长
おおひら
大平 定子さん
さだこ



総勢37人、平均年齢68歳のボランティアガイドをまとめる。趣味はちぎり絵。

知識をつけて観光振興を

登別市観光ボランティアガイド会は、地獄谷で観光客を案内し続け、ことしで結成26年となります。平成25年には、団体としては珍しい登別市表彰を受けました。「活動が認められうれしいです。これも会の基礎を作ってくれた先輩のおかげです」と話すのは会長の大平さん。大平さんは自身も観光客の案内をしながら、おもてなしの心の大切さや温泉観光を取り巻く現況について会員に情報提供をしています。

登別観光のこれからについては、「私たちが知識をつけて温泉以外の魅力も伝え、連泊してもらった必要があります」と話します。

会の活動は11月から4月までお休みとなりますが、大平さんは「この期間に会員みんなで温泉街の昔の様子やアイヌ文化などについて勉強し、より質の高いガイドをできるようにしたいです」と今後に向け意欲を燃やします。